

第 3 3 2 回

日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会 《 プ ロ グ ラ ム 》

日 時 : 平成 1 6 年 1 2 月 4 日 (土) 午後 3 時 3 0 分
会 場 : 新潟グランドホテル 5 階 『 常盤の間 』
新潟市上大川前通 3 ノ町 025-228-6111

次回 第 3 3 3 回新潟地方会予告

日時 : 平成 1 7 年 3 月 1 2 日 (土) 午後 3 時

会場 : 未定

演題申込期限 : 平成 1 7 年 2 月 1 6 日 (水)

- ※ すべて PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分

951-8510 新潟市旭町通 1 の 7 5 7

新潟大学医学部泌尿器科学教室内

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784

会長 高 橋 公 太

1. 間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張療法の経験

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野 利根川悦子、小原健司、渡辺竜助、
車田茂徳、水澤隆樹、小林和博、金子公亮、高橋公太

膀胱・尿道部の痛みを主訴とし、頻尿、尿意切迫感を伴う painful bladder syndrome として間質性膀胱炎が注目を集めている。当院では、間質性膀胱炎が疑われる症例に対して、診断と治療を兼ねて麻酔下に膀胱水圧拡張療法を行っている。2003年6月から2004年11月までに施行した10例について臨床効果を検討した。

治療後の排尿回数、一回排尿量は9例で改善、不変が1例であった。痛みに関しては7例で改善がみられたが3例は不変であった。全般的改善度は、改善が7例、不変が3例であった。

2. 精巣腫瘍の後腹膜リンパ節転移と考えられた悪性リンパ腫の一例

長岡赤十字病院 松木真吾、滝沢逸大、米山健志、森下英夫
県立吉田病院 田崎正行 山形大学 高橋祐二

症例は55才男性。主訴：下肢の浮腫。精査後精巣腫瘍及び後腹膜リンパ節腫大を認め当科へ紹介。高位精巣摘出術(Seminoma)施行後、Stage IIIaとして導入化学療法4コース施行。画像上後腹膜リンパ節の縮小を認めた。効果判定上はPRだが、本人の希望にて経過観察となる。経過中表在リンパ節が急激に腫大したため、ソ径リンパ節生検を施行した。Malignant lymphomaの診断にて、血液内科でCHOP4コース施行。後腹膜リンパ節は著明に縮小し、現在血液内科で化学療法中である。

3. 腹痛、発熱により発症した後腹膜cystic lymphangiomaの一例

新潟労災病院泌尿器科 有本直樹、小池宏
同放射線科 奥泉美奈、同病理部 川口誠
県立十日町病院泌尿器科 星井達彦、同産婦人科 遠間 浩

症例は47歳女性。2004/7/6より発熱、右側腹部痛あり。県立十日町病院のCTで後腹膜に巨大な嚢胞性腫瘍あり7/7当科紹介された。穿刺にて約1,8Lの黄色調、透明な排液があった。7/20カテーテル抜去したが8/4CTで再び液体貯留あり。9/16手術施行、嚢胞性腫瘍は周囲との癒着が強く可及的切除となった。病理でcystic lymphangiomaの診断であった。lymphangiomaは頭部、頸部、皮膚に好発し後腹膜で発生することは稀である。病因として胎生期のリンパ管発生時の異常が考えられており90%が1歳までの発症で今回のように乳児期以降に外因性の要因がなく発生することは少ない。術前の診断は困難で、悪性腫瘍との鑑別のため外科的治療を必要とされることが多い。

4. ABO血液型不適合腎移植における新しい治療戦略

Rituximab/MMF 脱感作療法による脾摘回避の試み

新潟大学大学院・腎泌尿器病態学分野 齋藤和英、中川由紀、擣木 立、
諏訪通博、熊谷直樹、谷川俊貴、西山勉、高橋公太

ABO 血液型不適合腎移植の長期の生着率は適合例に匹敵することが明らかになった。しかし、未だに一部の症例において認められる、移植後早期におこる抗赤血球抗体価の急上昇を伴う激的な液性拒絶反応をいかにして阻止するか、手術侵襲を伴う脾摘を行わずにこの目的を達成するためにはどうすればよいか、現在の最大の課題である。

われわれは移植 1 ヶ月前から MMF と低容量ステロイドの内服を開始し、2 週間前と 2 日前に B cell 表面抗原である CD20 に対するキメラ型モノクローナル抗体 rituximab を投与することにより、従来必須とされていた脾摘を行わずに液性拒絶反応を回避し、移植腎を生着させることに成功した。

臨床経過に Rituximab 濃度、T,B cell 表面抗原の経時的モニタリング、移植腎生検所見を交えて報告する。

5. 賃貸契約のESWL『Econolith 2000』での治療-9ヶ月間39例の検討-

厚生刈羽郡総合病院泌尿器科 羽入修吾

Medispec社製『Econolith 2000』を2004年1月から試用で、4月から賃貸契約で使用している。9ヶ月間で39例に延べ46回、ひとり平均1.18回のESWLを行った。入院41回・外来5回、全身麻酔37回・無麻酔9回(鎮痛剤7回・不要2回のESWL1回で残石なしが22名、4mm以下の残石が6名、計28名(72%)が結石破碎に成功した。5mm以上の残石11名のうち、5名が2回目ESWLで残石なし、4名が経過観察、2名が他治療へ移行となった。5mm以上の残石の原因は大結石、透視で見えづらい結石、嵌頓結石であった。契約では治療1回につき10万円の使用料を支払うが、賃貸期間で27名に延べ31回、ひとり平均1.15回のESWLは治療効果・採算性とも良好であった。

6. 1976年以降当院で経験した膀胱癌1000例の臨床的検討

県立がんセンター新潟病院 北村康男、笠原 隆、斉藤俊弘、小松原秀一
峯山浩忠、坂田安之輔、渡辺 学

1976年から2002年までの間に当院で経験した1000例の膀胱癌症例を対象に検討を加えた。男性771例、女性229例、平均年齢68.0±31.1歳、平均観察期間は2262±2050日であった。初回治療としては、膀胱全摘術149例、TURBT 654例、膀胱部分切除術40例、膀胱内注入療法は再発予防を含め299例になされた。TURBT後の尿路腫瘍の非再発率は1年72.0%、3年54.3%、5年44.6%であった。膀胱全摘症例の生存率は1年85.1%、64.8%、56.3%であった。

[新潟地方会終了後 同窓会総会 16:30~17:00]

[休 憩 17:00～17:15]

サテライトセミナー

日 時：平成16年12月4日(土)

17時15分～18時30分

会 場：新潟グランドホテル 5階『常盤の間』

17時15分～17時30分

製品紹介

『リュープリン —最近の話題—』

武田薬品工業株式会社

17時30分～18時30分

座 長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野 教授 高橋 公太先生

『医学研究について』

国立長寿医療センター 総長 大 島 伸 一 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

武 田 薬 品 工 業 株 式 会 社

サテライトセミナー終了後、3階「悠久の間」にて合同懇親会となります。